

会議名	第14回 加古川市石綿関連疾患リスク推定部会	
日 時	令和4年8月8日(月) 14時30分~15時00分 加古川市民会館 大会議室	
出席者	部 会 員：村山部会長、名取委員、亀元委員、富田委員  建 設 部                    糺谷建築担当部長、正中参事 事 務 局：営繕課 萩原課長、高木副課長、森岡担当副課長、尾崎担当係長、森田主査	
会議次第	1. 開 会	備考
	2. 部会員出席状況報告	
会議次第	3. 配布資料確認	
	4. 議 題 議題1 令和4年度に行う再現実験について                    【資料1】	
会議次第	5. そ の 他	
	6. 閉 会	
配布資料	資料1 令和4年度実験仕様書(案)	

## 第14回 リスク推定部会 議事録（全文）

### 1. 開 会

### 2. 部会員出席状況報告

### 3. 配布資料確認

事務局 本日の部会を始めさせていただきたいと思います。部会長、議事進行につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

部会長 よろしくお願いたします。それでは次第に従って進めさせていただきます。

### 4. 議題

#### 議題1 令和4年度に行う再現実験について

事務局 令和4年度開催予定の実験の仕様書案についてご説明させていただきます。あくまで現時点の予定であり、現場の状態や委員の皆様のご判断によって、実験当日の大幅な変更や、やむを得ず中止の判断がなされる可能性もあります。

【資料1】項番1に主要な石綿ばく露の内容を記載しています。

項番2「別府中学校の下地調整材を含んだ再現実験案」で、項目毎にご説明させていただきます。場所は、関東圏の匿名除去業者様所有のチャンバーで実施予定です。およそ5m×6m×2mのチャンバー内を二重養生し、その中で区画を行い部分養生を設置します。（別紙メンテナンスルーム図を参照しながら）こちらが実験空間となっており、前室のような区画された部屋と、その隣全体を区画した場所での実験を想定しています。日時は、8月下旬の予定です。負圧除じん機は最小限の稼働にとどめ、実験中に排気部で濃度測定を行い、外部への漏れがないことを確認しながら実験を進めます。作業の再現としては、資料表記の6条件を検討しています。（1）使用できる別府中の下地調整材を含んだサンプルが直径10cm以下で厚さ10cmと限定されています。（2）ヒアリングでわかったこととして、本来エアールーティンを使用されていましたが、一定時間粉じんを出して、その数字の濃度が一定値となる必要があるため、今回の実験は電動サンダーを用いて行います。（3）実験の流れですが、最初の1回目はサンプル裏側の塗装面がないセメント部分に対して、電動工具ディスクグラインダーで発じん作業を行い、粉じんを測定するサンプラー位置の調整を行って、修正をかけていく想定です。（4）2回目にサンプルの下地調整材がある部分を用いて、粉じん測定を行うための粉じんとアスベスト濃度のチェ

ックを行います。(5) 適切な濃度測定体制が整えば、残りのサンプルを用いて、石綿の最大発じんの実験を進めます。(6) 足場歩行が並行して行われていたため、内部で職員役を行っていただく方が歩行して、なるべく当時の現場の状況を再現した環境下で実験を行う予定です。測定、作業、指揮者はそれぞれ資料に記載の方々です。

続いて項番3は、下地調整材の除去作業時の石綿の濃度と、無害ガスの濃度の相関を確認する実験についてです。これについては、1日かけてアスベストの距離減衰や時間減衰を測定するために、2作業を再現する予定です。1つ目が、「カッター切り作業・歩行・ガラ落としと同時作業」1～3時間。2つ目が「粉状の石綿の掃除作業」を考えております。目的は、トレーサーガスと、アスベストの濃度の相関関係の把握と、建物内部への距離減衰や時間減衰の確認を行うことです。場所は、関東の下地調整材を除去する現場のどこかで、今後決定していく予定です。日時も、その現場が決まり次第ですが、11月から翌年3月ごろの金曜日から週末にかけての作業を想定しております。こちらも下地調整材の除去現場の状況によりますが、負圧除じん機の稼働は最小限にとどめる予定です。作業の条件は2点あり(1)カッター切り作業・歩行・ガラ落としと同時作業1～3時間程度行いますが、石綿粉じんの濃度の測定とトレーサーガスの測定の実験を同時に行うことができるかどうか懸案事項です。使用する工具は電動サンダーで、カッター切り作業を行います。この実験でも足場歩行の再現で、実験内部空間で職員役が歩行します。(2)「粉状の石綿の掃除作業」1～3時間再現予定です。これも同じく懸案事項として、石綿粉じんの濃度と、トレーサーガスの拡散実験を同時に行うことが可能かどうかです。測定、作業、指揮者はそれぞれ資料に記載の方々です。トレーサーガスの放出、またその捕集部分の実験に関しては、日本気象協会の職員の方が数名立ち会って行われる予定です。日程は、現場担当者と細かい実験の仕様に関する打ち合わせを8月以降に進めまして、10月以降で実験を行う前に、必要であれば石綿則による健康診断を受診いただいたり、その実験空間に入るための安全講習を受講していただきます。また除去業者の他現場で、こういった状況で石綿の除去作業が行われているかという現場見学も想定しております。具体的に実験を行う時期は11月～翌年3月頃の想定ですが、実験前日である金曜日に測定現場で打ち合わせを行い、翌土曜日に先ほどお伝えしたようなカッター切り・歩行・ガラ落としや掃除作業の実験を行っていく予定です。事務局からは以上です。

部会長 委員の皆さんから補足等ありますでしょうか。

ーご意見なしー

今年度は、今説明をいただいた方向で実験を進めていきたいと思っております。あくまで案で、これから変更される可能性もありますし、資料先頭に記載のとおり、場合によっては中止という判断もあり得るということで進めさせていただきます。

## 5. その他

(今後のリスク推定部会開催日程を確認して閉会)

第15回：令和4年9月6日（火）14:00～ （予定）